

## 今後の経済財政政策運営に向けて

2021年11月9日

十倉 雅和  
中空 麻奈  
新浪 剛史  
柳川 範之

### 1. 「成長」と「分配」の好循環拡大により、力強い成長と豊かさの実感を

岸田総理は、「新しい資本主義の実現」を掲げ、「成長」と「分配」の好循環拡大により、力強い成長と豊かさを実感できる新しい経済社会創りを表明された。

まずは、短期的な課題への徹底した「安心確保」、例えば、感染症の再燃に備えた万全の対応、再燃時の備えとしての失業なき雇用移動や中小企業の新事業開発・事業転換への支援等を徹底して進めるべきである。特に、足元では、「ワクチン・検査パッケージ」を活用して社会経済活動の活性化を図るとともに、水際対策をワクチン接種者の発生率等のデータを踏まえて段階的に見直し、ビジネス往来を正常化すべきである。来年の経済活性化に向けては、ブースター接種(3回目の接種)について、職域接種を含め、早急に方針・工程を明示することや、消費喚起に向けたマイナンバーカードを活用したポイント制の利活用等は重要である。

同時に、中長期の課題として、低下してきた生産性を引上げ、現役世代の可処分所得を拡大する取組を粘り強く行うことが不可欠である。このためには、民間のアニマルスピリッツの発揮促進、デジタル・グリーン・人材への徹底した投資を通じた生産性の引上げ、価格転嫁の円滑化、現役世代の社会保障負担の軽減といった取組を一体かつ大胆に進め、「成長し分配率も上げていく」という好循環を実現していくべきである。

岸田内閣における経済財政諮問会議の使命は、この目標の実現に向けた短期・中期の経済財政運営を通じた政策運営全般の「かじ取り」にある。マクロ経済運営においては、日銀とも適切に連携し、短期・中期で財政金融政策の適切なポリシーミックスが実行できる体制とすることが重要である。また、人的資本の強化、格差の是正、社会的共通資本の充実、時代のニーズに即した国と地方の在り方等に向けた政府の機能の向上は、岸田内閣の最重要課題の一つである。さらに、財政の単年度主義の弊害是正に取り組む。その観点から、多年度を含む適切かつ効果的な支出の仕組みの強化に取り組む必要がある。経済財政諮問会議は、そうした取組の立案、推進、成果チェックの役割を、先導的に果たすべきである。

## 2. 今後の審議の進め方

岸田内閣の経済財政政策の方向性を明確にするため、以下の取組を進めるべき。

- ① 本日の議論を踏まえて、経済対策を早急に取りまとめる。日銀と連携し、金融政策、物価等に関する集中審議を四半期に1回程度実施し、短期・中期の視点からポリシーミックスの在り方、成果等を検証する。そのタイミングで、経済状況と合わせて、経済対策の執行状況を検証する。
- ② 岸田内閣としての初めて編成する令和4年度当初予算について、予算編成の基本方針を取りまとめ、予算の重点事項を明らかにする。
- ③ 岸田内閣が掲げる成長戦略と分配戦略の推進により成長と分配の好循環を実現するため、マクロ経済運営の観点から総合的な検討を行う。
- ④ 多年度にわたる財政の枠組みである新経済・財政再生計画や中長期試算、EBPMの仕組みとしての経済・財政一体改革とその工程表等について、単年度主義の弊害の是正や適切かつ効果的な支出の徹底に結び付ける。
- ⑤ 新しい資本主義実現会議におけるビジョンについての議論を踏まえ、政府の機能の向上に向けた課題解決の基本的方向性について議論を進める。
- ⑥ 来年年央に骨太方針を策定し、こうした取組を包括的に盛り込む。